

花

注目される研究報告
シリーズ 恩師と語らう
学生の課外活動&サークル紹介 Enjoy! 学生ライフ
活躍する卒業生紹介 “学びの先”
OBOG・教員によるコラム
基金関係のお知らせ
Campus Information

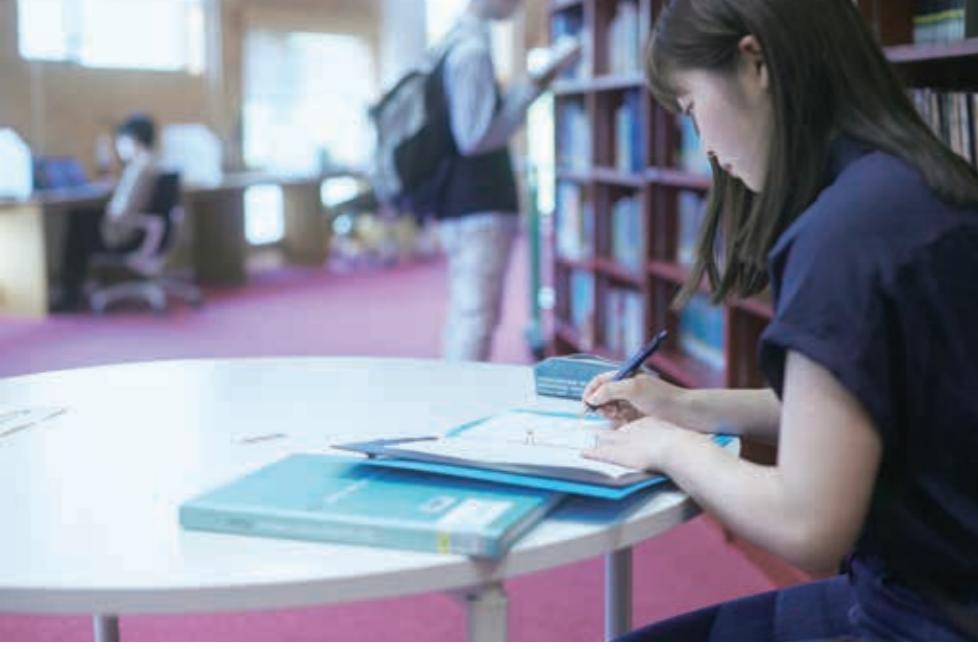
いまと
新潟大学の魅力と現在を発信
新潟大学季刊広報誌 [RIKKA]
2021.SUMMER
NIIGATA UNIVERSITY MAGAZINE No. 37

特集

「オーダーメイド型のメジャー・マイナー制教育で
幅広い教養と深い専門性を両立した人材を育成」

学生がデザインする 分野横断型の学修プログラム





Niigata University Interdisciplinary Creative Education Program

新潟大学が2021年度から導入した「全学分野横断創生プログラム」。総合大学の豊富な教育資源を活かし、学生自身が主専攻(メジャー)と副専攻(マイナー)を柔軟に組み合わせて学びをデザインできる。

次世代の教育モデルとして期待される

本プログラムが描く人材育成について特集する。

新しい学び
専門領域を横断した
学部の枠を越え

新潟大学 全学分野横断創生
プログラム（以下NICEプログラム）は、従来の学部の枠にとらわれない、複数の専門領域を横断して学ぶことができる、新潟大学独自のプログラムである。NICEプログラムの特長は、総合大学の豊富な教育資源を活かし、学生一人一人の学びをデザインするオーダーメイド型の教育であること。そして、その目的は、社会的課題に対して複眼的視野を持つ人材が求められています。なぜなら近年の地域・社会・地球課題というものは、一つの専門分野だけでは解決することが困難で、様々な要素が複雑に絡み合って事象として立ち上がりつつあるからです。そのためには一つの事象に対して複眼的視点を持ち、一方で他の専門分野の人間と協働して向き合える人材が必要とされています。（小久保理事）

例え、文系学部の卒業生が自治体で行政に携わり政策を考える際、その政策の根拠となるデータを解析する必要がある。また、理系学部の卒業生が企業で



右)小久保 美子 理事(教育・学生支援担当)・副学長
左)福島 治 副学長(学務担当)

特集

学生がデザインする 分野横断型の学修プログラム

—オーダーメイド型のメジャー・マイナー制教育で幅広い教養と深い専門性を両立した人材を育成—

2021.SUMMER vol.37

CONTENTS

03 特集

学生がデザインする 分野横断型の学修プログラム

—オーダーメイド型のメジャー・マイナー制教育で幅広い教養と深い専門性を両立した人材を育成—

08 | 注目される研究報告

10 | シリーズ 恩師と語らう
11 | Enjoy! 学生ライフ

12 | 活躍する卒業生紹介 “学びの先”

13 | OBOG・教員によるコラム

14 | 基金関係のお知らせ

16 | Campus Information



Cover Photo

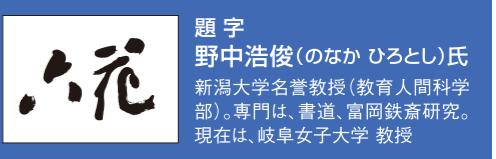
新潟大学は、多様な授業科目から、分野を横断した学びができる総合大学。約59万m²という広大な五十嵐キャンパスでは、自転車を利用して移動する学生が多く見られる。

新潟大学SNS公式アカウントが更に充実！
従来のfacebookに加えTwitterとInstagramも公式アカウントがスタート。更に本学の取組や普段の風景などをお楽しみいただけます。



『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。



題字
野中浩俊(のなか ひろとし)氏
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。現在は、岐阜女子大学 教授

NICEプログラム「分野横断デザイン」科目担当教員の期待



教育・学生支援機構

右)木村裕斗 准教授

左)竹岡篤永 特任准教授

興味・関心へのアプローチは多岐に渡る。

社会と自分の接点の中から複数の領域に展開することが必要

学生がメジャーを学ぶ際、「そもそも自分はなぜこの学問に興味を持っているのか」ということを根本的に理解することは意外と困難である。だからこそ、その学びをマイナーを通して深めることは、学ぶことの意味を自身で問うことにつながり、漫然と学ぶのではなく自分なりに体系づけて学ぶことが重要と、NICEプログラムを担当する教育・学生支援機構の両教員は語る。

「メジャーでの学びを世の中でどう役に立てるのかということを理解することは、非常に難しいこと。メジャーとマイナーを掛け合わせることで自分は何に興味を持ち、メジャーを学ぶのかという意味についても気づいてほしい。将来の人生をイメージして意識的に4年間を過ごしてもらいたいというのがこの科目的大きな目標です」(木村准教授)

NICEプログラムで最も自由度の高いマイナー学修の形式が『学修創生型マイナー』だ。自己選択方式で14単位以上の修得を目指し、1・2年次の『分野横断デザイン』、3・4年次の『分野横断リフレクション』が必修になっている。二つの必修科目には、学生自身が何を学ぼうとしているのか、それがどう結実したのかを明確するという狙いがある。

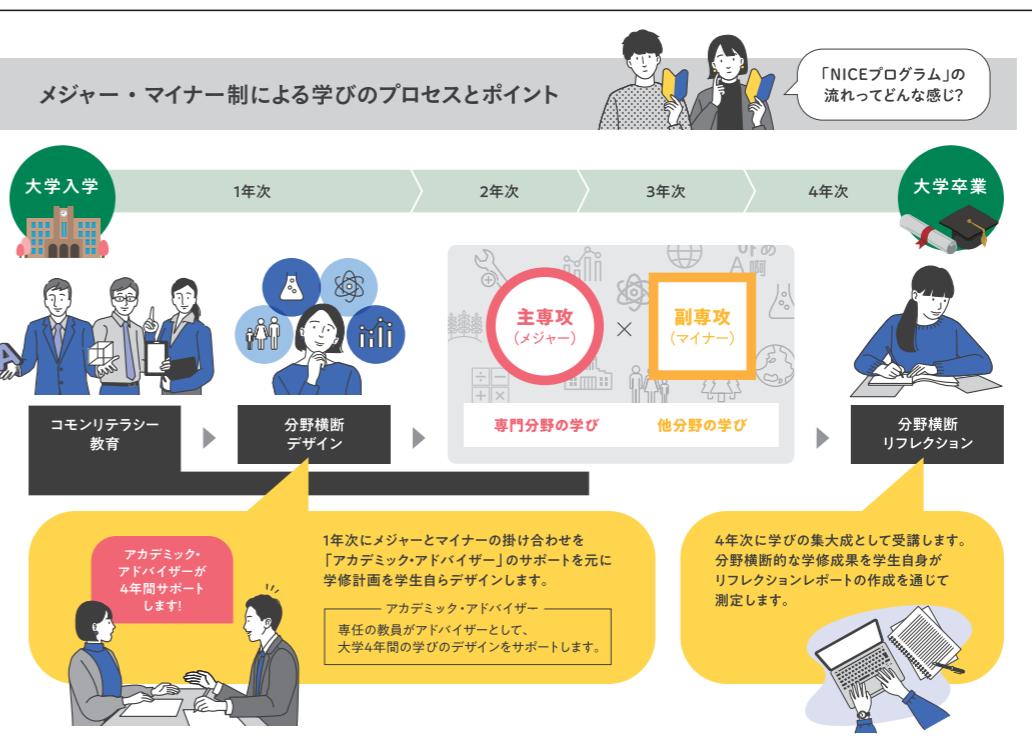
「『分野横断デザイン』は入門科目で、学生のマイナーの選択を授業担当教員等が支援し、学修計画を学生自らデザインします。自分の興味・関心と社会課題をベースとして、オリジナルの学修パッケージを創生するのです」(木村准教授)

学生は講義前に自身がメジャーを学ぶ上での目標や社会とのつながりについての考え方をまとめてから臨む。講義形式ではなくアクティブラーニングで重視されるディスカッションスタイルで行うのも特徴だ。

「自分の興味を掘り下げていくと、その興味に社会が大きく影響を与えていることに気付かれます。例えば貧困に興味を持ったとして、その興味は一つの分野では解決できません。人口問題、食糧問題、政治問題と、貧困へのアプローチは多岐に渡ります。社会と自分の接点の中から複数の領域の学びに展開していくことが必要なのです」(竹岡特任准教授)

また、『分野横断リフレクション』は学びの集大成。メジャーとマイナーを掛け合わせた学びが、自分のキャリアにどのように役立つかを自ら意識し、言語化することを目指す。学びを通して学生に期待するのはどのようなことか?

「自分の専門領域以外にもう一つの視点を持つということ。課題を発見しても知識技能がなければ解決しません。それは卒業後も必要な力です。物事を鋭く切り取れる力を育てていくことを期待しています」(木村准教授)。「ある課題を自分のメジャーとは別のものを見方でとらえる力です。現代社会の課題解決には複数の視点が必要なのは当たり前で、以前よりもさらに高度に求められているのです」(竹岡特任准教授)



時代や社会のニーズにこたえる 分野横断型の教育制度は 新潟大学が先駆けである

目標・課題に応じて 選択できる マイナー学修

このような理念のもとでスタートしたNICEプログラムは、メジャーに組み合わせるマイナー学修にも、学生の目標や課題に応じて3種類から選択することができる。

まず、「学修創生型マイナー」は、学生自身が教員のサポートを受けながら、新潟大学の多様な科目群から自由に14単位以上を選択し、自分でオリジナル学修パッケージを作れる。最も自由度の高い学びが可能だ。

また、「パッケージ型マイナー」は、すでに興味・関心のあるマイナーネジメント、近年注目が高まる分野を学ぶ「データサイエンスリテラシー」の4パッケージが開講され、パッケージ内の科目を自分でマネジメント、地域を支える人材育成を考える「コミュニティ・マネジメント」、近年注目が高まる分野を学ぶ「データサイエンスリテラシー」の4パッケージが開講され、パッケージ内の科目を自分で

選択することができます。最後に、前述した「オナーデザインマイナー」が加わる。いずれも、学生が目指すべき目標を明確にすることで、マイナーで何を学ぶか選択することができる制度だ。

計画的に履修することができる。今後、約20の新たなパッケージも開設予定だ。

最後に、前述した「オナーデザインマイナー」が加わる。いずれも、

学生が目指すべき目標を明確に

か選択することができる制度だ。

アカデミック・アドバイザー アドバイザー

このような分野横断的な学びを実現するために学生をサポートするのが「アカデミック・アドバイザー」の存在だ。マイナーの修了を目指す学生が履修する

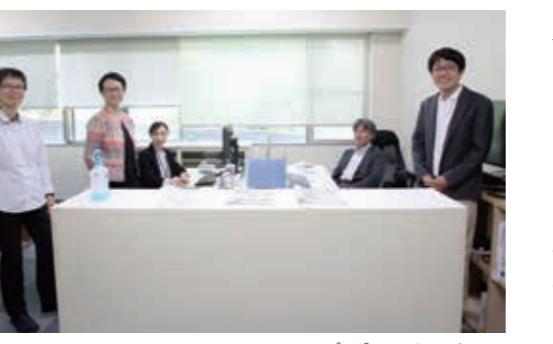
NICEプログラム履修学生の声

自分の興味に合わせた学びが深まる



吉田遙子さん
(理学部1年)

「ガイダンスを通してNICEプログラムは、総合大学の強みを活かした制度だと知り履修しています。私は理学部で物理学について深く学んでいきたいと思っていますが、文学や芸術、心理、社会学など、人間を対象としている学問にも興味を持っていました。現在は、その両者を結び付けた研究ができれば面白いと考えています。例えば、地震や津波などの自然災害、交通事故などの人的災害のような人命を脅かすピンチを、物理学に人文社会科学的な視点を加えて捉えることで、新しい課題解決方法が思いつくかもしれません。このように自分の興味に合わせて自らマイナーを選べる点にNICEプログラムの魅力を感じます。マイナーを上手く掛け合せて目標を持って努力したいと思います」



NICEプログラムスタッフオフィス

学生と共に、どんな知識を深めていきたいのかを考え、4年間の学びを支援し、その達成度をチェックします。また、講義時間外でも学生は専用の相談室に来て、アドバイスを受けることができます。学生と密にコミュニケーションをとれる存在がいることで、学生は安心してじっくりと学ぶことができます。今後、意欲のある学生の参加が増えていくことを期待しています」(小久保理事)

このような学びの必要性は先に述べた社会的な背景、それに伴う大学改革に導かれたものだが、学ぶ本人である学生の気質、学ぶ姿勢の変化も大いに影響するようだ。

「以前に比べて、目標や課題に対する意識的な学生が非常に増えていると思います。義務教育も詰め込み型ではなく、課題解決型になってきていますし、子どもの資質・能力をベースに伸ばすことを念頭に置いています。つまり、知識・技能、思考力・判断力、表現力・人間性を重視する学校探求的な学びを経験してきているので、学びに対する意欲や積

極性のある学生が多い。彼らにとって、NICEプログラムは理屈的な学びを提供できるはずですが、NICEプログラムは理屈のない環境では、学生が真に求められる学びを提供できるはずです」(小久保理事)

「所属学部で用意された科目しかし、NICEプログラムは理屈的な学びを提供できないこともあるかもしれません。メジャーのほかにも興味を持った分野があればマイナーで学べるという環境があれば、学生も安心して学び続けることができます。興味・関心が広がり、学部は文系、大学院では理系に進学というケースもあれば、学生も安心して学び続けることができます。国内の私学や海外の大学には、ダブルメジャーの制度を持つ大学もありますが、日本の国立大学における分野横断型のメジャー・マイナー制度の導入は、新潟大学が先駆けです」(福島副学長)

現存するほとんどの職業が、IT技術によって代替されると言わざる近未来では、ビジネスチャンスを見極める「起業家マインド」はますます求められる。官民に限らず、どの領域でもステークホルダーは多様化・細分化、あるいは時代や社会のニーズにこたえニーズを把握しなければ、プロジェクトは円滑に進まない。新潟大学におけるNICEプログラムは、時代や社会のニーズにこたえる最新型の人材育成に大いに貢献が期待される。地域・社会に貢献する人材の輩出は大学の大使命だからだ。

注目される研究報告

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。

研究課題 ラボ実験で環境経済学の仮説を検証する

経済学の視点から環境問題を解決する方法を提案する

環境経済学は環境問題を扱う経済学の一分野で、経済学の中では比較的新しいジャンルだ。日本では1960年代、経済活動が活発に行われた結果、水質汚染や大気汚染が深刻化し、環境問題が注目されるようになった。

伊藤伸幸准教授は「閉鎖性水域の水質汚染」などの環境問題をテーマに、学生を被験者として仮想的な投資やオーバークションに参加させ、その行動を分析するラボ実験を行っている。これまでの経済学では統計データや調査データの分析から経済現象を理解してきたが、近年、ラボ実験による研究は重要視されている。

「経済学とは社会全体の福祉をより高めるために、どのような仕組みが必要か

を考えることです。例えば、汚染や公害で健康被害を受ける人が増えると福祉は低下します。また、経済活動を規制して生産性が下がっても福祉は低下します。社会全体で最も福祉が高くなるレベルで環境被害と生産性をバランスさせ、最小のコストで環境問題を解決するにはどうすればよいか、経済学の知見から環境問題の解決策を考えるのが環境経済学です」

環境経済学には、環境(被害)の価値を金銭単位で評価する「環境評価」という手法があり、GDP(国内総生産)を生み出す一方で環境破壊や見えない福祉がどのくらい失われているかを金額という同じ単位で比較・分析することができる。

「環境問題に関わる分野には、他に環境倫理学や環境社会学などがあります。私が環境経済学を選択したのは、数値の比較によって“これが最適である”という1つの答えを出すことができると考えたからです。そもそも私が環境経済学に興味を持ったきっかけは、高校3年生の夏休みに新潟に遊びに訪れたとき。海底の石に堆積したヘドロを見て環境問題に興味を持ち、調べていくなかで、問題を解決するための制度が足りないのではないかと考えたのです。政策に関して科学的な視点から提言できる環境経済学を学びたいと思い、今に至ります」

研究を積み重ねて低コストで効率的の良

い政策を提示できても、それが実際に導入されるには政治が大きく関わり、社会で実現されるには時間がかかる。

「環境経済学は社会と政治のための設計図を作るような役割です。政策提言に説得力を持たせるためにも今後はラボ実験だけでなく、現実の社会を対象としたフィールド実験にも取り組んでいきたいと思います」



↑ 実験データを使って異なる制度間でオーバークションの結果にどのような違いが出るかを検証する



↑ 経済科学部にある経済調査実験室では仮想的なオーバークションなどのラボ実験が実施できるようになっている

研究課題

堆積物による日本海沿岸の津波履歴の解明

地層に残る痕跡から過去の津波を特定し未来の予測と防災対策につなげる



災害・復興科学研究所 ト部厚志 教授

Profile | 博士(理学)。専門は災害科学、地質学。津波堆積物の調査を軸に、地震時の災害の予測と軽減に関する研究に取り組む。

世界中を震撼させた2011年の東北地方太平洋沖地震。日本列島の広い範囲に甚大な被害をもたらした原因のひとつが地震によって発生した津波だった。ト部厚志教授は「津波堆積物」に着目し、歴史上記録が存在していない、過去の津波による浸水範囲や発生時期の解明に取り組んでいる。

「津波堆積物とは津波によって海水と一緒に運ばれた砂泥や石が堆積したものであり、いわば地層中に保存された過去の津波痕跡です。堆積物の分布を探ったり、砂の層に含まれる成分などを解析することで、津波が発生した年代

判定やそれがどの程度の規模だったかを推測することができます」

2013年に発足した「日本海地震・津波調査プロジェクト」に参加し、奥尻島や佐渡島をはじめ北海道から九州までの日本海沿岸の各地域でボーリング調査、露頭調査を実施。代表的な地点において約8000年～9000年前までの地層を採取し、確度の高い津波堆積物の認定と解析によって津波履歴を明らかにしてきた。

「地震活動がいつ発生したのか、そしてそれはどの断層がもたらしどれくらいの頻度で活動しているのか、それらを紐解いていくための材料となるのが津波堆積物です。日本海側には津波や強震動を引き起こす活断層が多数分布していて、例えば『この場所は9000年間で24回津波履歴が認められる』という具合に、過去のことが分かればそこから多くの事実や可能性が見出せます。断層について探究するメンバーや、津波の規模を数値化する専門家とも連携を図りながら、震源断層・津波波源モデルの構築を目指しています」

これらの研究結果や成果は、ハザード



↑ 海岸露頭での津波堆積物調査



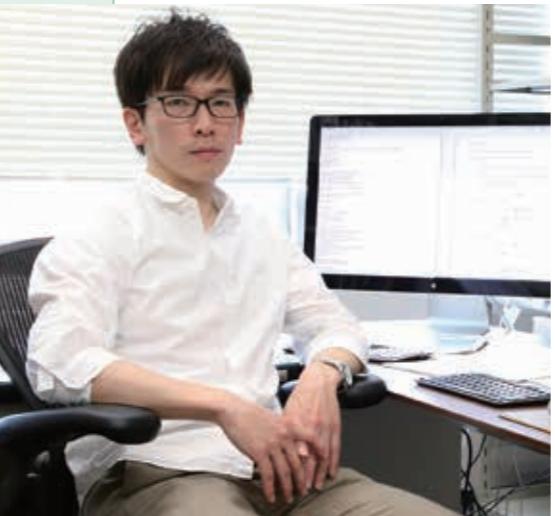
↑ 露出した地層の表面やボーリングなどで採取した堆積物の表面をはぎ取って保存。分析に使用する

ドマップ作成や建築物新設・更新の際の基準など、既に多くのシーンで役立てられている。今後は洪水堆積物の調査も視野に入れ、地質学の観点から社会に貢献していきたいと語るト部教授。現在は自身の研究の傍ら防災に関する情報発信や防災教育の普及にも力を注いでいる。

「我々人類は自然環境と上手に付き合っていかなければなりません。地震や津波をはじめとする自然災害を防ぐことは難しいですが、正しい知識を持っていればリスクは確実に軽減できます。研究を通して蓄積した知見を、あらゆるツールやコンテンツを活用しながら皆さんに分かりやすくアウトプットしていかなければと考えています」



↑ 東北地方太平洋沖地震後に現地で採取した津波堆積物



経済科学部 伊藤伸幸 准教授

Profile | 博士(経済学)。専門は環境経済学。分析の一つに実験手法を取り入れた実験環境経済学の研究を行っている。

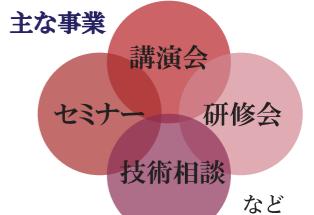
企業の技術向上を目指す産学官交流ネットワーク

新潟大学産学連携協力会

新潟大学地域創生推進機構と産業界等が密接に連携し、産業の活性化、高度化、地域社会の発展を目的に技術の向上及び地域連携を図ります。

詳しいお問い合わせの方、加入ご希望の方は、ホームページをご覧ください。

新潟大学産学連携協力会



https://www.ircp.niigata-u.ac.jp/kyouryokukai/

新潟大学キャンパスライフ支援センター キャリア・就職支援オフィス

CAN システム

卒業生と新潟大学生をつなぐ、キャリア形成サポートの新しいカタチ！卒業生と学生をつなぐ CAN システム

CAN システムとは Web 上のシステムを介して、学生の就職活動やキャリア形成をサポートしていくいただくシステムです。社会の先輩として学生たちの悩みや不安にアドバイスをお聞かせください！

OB・OG の皆様のご登録をお待ちしています！

お問い合わせ先 新潟大学キャンパスライフ支援センター キャリア・就職支援オフィス TEL:025-262-6087 FAX:025-262-7579 E-mail:shushoku@adm.niigata-u.ac.jp

新潟大学 CAN システム 検索 URL https://www.career-center.niigata-u.ac.jp/

企業の技術向上を目指す産学官交流ネットワーク

新潟大学産学連携協力会

新潟大学地域創生推進機構と産業界等が密接に連携し、産業の活性化、高度化、地域社会の発展を目的に技術の向上及び地域連携を図ります。

詳しいお問い合わせの方、加入ご希望の方は、ホームページをご覧ください。

新潟大学産学連携協力会 (新潟大学地域創生推進機構内) TEL 025-262-7553 FAX 025-262-7577 Email unico@cer.niigata-u.ac.jp

お問い合わせ先 新潟大学産学連携協力会

**新潟大学で“真の強さ”を学び、
社会に羽ばたいた10万人を超える卒業生。**

新潟大学で活躍する卒業生をご紹介します。

”学びの先“



メディアからの取材も増え注目を集めている（「仕事を楽しむためのwebマガジンB-plus」でのインタビューにて女優の宮地真緒さん）



祖母の誕生日のお祝いにプレゼントしたオンライン旅行の様子



YouTubeには浅草を紹介する旅行動画が多数アップされている



スタートラベル
ほしなおと
星直人さん
Profile.

福島県いわき市出身。1984年生まれ。2007年3月、新潟大学経済学部経済学科卒業。同年4月、大手旅行代理店に入社。業務の傍ら立ち上げた「スタートラベル」で浅草を拠点にオンライン旅行を発信している。

「旅行をテイクアウト」で高齢者のQOLを向上させる

行動→“出会い”のスペイラル

イーグルアットして楽しむように、家にいながら気軽に楽しめるオンライン旅行。私がガイド役になり、ナレーションを入れながら撮影した旅先の映像で視聴者を楽しめています。2021年1月からYouTubeで動画公開もしています

新型ウイルス感染症拡大に伴い、映像技術を使つた観光系企業や自治体は多いが、高齢者のクオリティオブライフの観点からアプ

この発想力や仕事觀の根底にあるのは新潟大学での遊びと過ごした時間だ。「大学時代を振り返る」と、自分が楽しいと思えることは全てやりきったと思いまます。しっかりと講義に出て、留学やサークル活動もし、アルバイトやレジジャーを楽しみ、お酒もたくさん飲みました。広いキャンパスに1万人以上の学生がいた新潟大学は出会い系の宝庫。出身地も学部もバラバラで、たくさんの人に出会えたのも良

かづたと思います」
スタートラベルの今後の展望に向けたアイディアは次々と浮かぶ。360度カメラで撮影した映像のライブ配信やVR視聴、新しい協働も模索している。

「新しい旅行を届ける仕組みは、テクノロジーが進歩すれば実現すること。しかし、私が何より重要なのは、それを商品として描くための最初のアイデアと、それが利用者に楽しさを感じさせるものか。私は技術職ではないので、アイディアを出し、それを現実のものにするためには、すぐに開拓していくことで、現実の旅が困難にならう高齢者の生活に貢献したい。」
面白いが根底にあり、出会った人に魅力を感じてもらう循環の中で仕事を創り出していきたいと思います」

新潟大学OG
山田彩乃の隔号連載コラム
“輝く女性”研究所

新潟大学教育学部卒業。2015Miss Earth Japan(日本代表)。株式会社Shitamichi HD 常務取締役 リリマップロダクション代表、特定非営利活動法人Lily&Marry's代表。久千代～AYANO YAMADA～代表。BSNラジオ「マエカブナガシカ」その他、ウォキングレッスン講師、講演会等も行っている。

Ayano Yamada

今回のテーマ 「地球の子供食堂と宿題Cafe」

近 年、孤食の増加や栄養素摂取の偏りなどは社会問題としても注目されており、それを反映するように子供食堂と呼ばれる場所も急増しています。今や全国に5000はあるとも言われ、様々な団体や個人がこの社会問題を取り組んでいます。

しかし、そんな子供食堂にも様々な課題があります。一つは、経済的に困難な子供のセーフティネットであるとか、子供のセーフティネットがあるといふ社会認識です。もともとのコンセプトは確かに貧困層の食事を支えることですが、これでは子供たちも「通っている子はご飯が食べられないかい？」というイメージがついてしまって利用しづらくなっています。もう一つは、本当に困っている子に届かないという問題です。子供食堂の多くは月に数回、多くても週に3回ほどで営業している形態が多いです。情報を探していませんが、これは子供たちも「通っている子はご飯が食べられないかい？」というイメージがついてしまって利用しづらくなっています。もう一つは、本当に困っている子に届かないという問題です。

子供食堂の食や居場所をめぐる社会問題施設を今年の5月にOPENしました。大きな特徴は毎日運営（水曜の定休日以外して）いることです。イベント的に開催される子供食堂では、

COLUMN ◇ 新潟大学教員によるコラム
“知見と生活のあいだ”

本学教員がそれぞれの専門領域と日常の接点を題材に、日々の生活に通じる理論やアイディアを綴るリレー式コラム。第19回は医学部医学科です。

第19回・医学部医学科
「新型コロナウイルスとコウモリ」

藤井雅寛
医学部医学科教授
専門はウイルス学。現在は、アルツハイマー病、バーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症などの神経疾患の病因にウイルス感染が関与しているという作業仮説に基づいて、研究をしている。

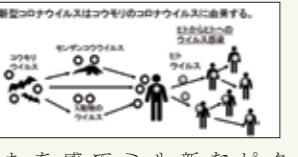
COLUMN ◇ 新潟大学教員によるコラム “知見と生活のあいだ”

本学教員がそれぞれの専門領域と日常の接点を題材に、日々の生活に通じる理論やアイディアを綴るリレー式コラム。

第19回は医学部医学科です。

第19回・医学部医学科 「新型コロナウイルスとコウモリ」

なぜ突然、新型コロナウイルスは出現したのでしょうか。新型コロナウイルス感染症は、動物に感染していたコロナウイルスが人に感染したことから始まりました。通常、動物のウイルスが人に感染し、それが人から人へと広がることがあります。しかし、変異した動物ウイルスが人に感染したものです。したがって、新型コロナウイルスのアミノ酸配列がどうか？それを調べる方法があります。その方法とは、新型コロナウイルス（アミノ酸配列（遺伝子配列））と、動物のコロナウイルスのアミノ酸配列を比較することで、多くの動物がコロナウイルスは、コウモリまたはセンザンコウのコロナウイルスと最も似ていることが分かります。そのため、新型コロナウイルスは、コウモリまたはセンザンコウのコロナウイルスとセンザンコウのコロナウイルス（アミノ酸配列）と、動物のコロナウイルス（アミノ酸配列）を比較することで、多くの動物がコロナウイルスを保有していますが、コウモリは特に多くのコロナウイルスを保有しています。ある研究では、1万匹のコウモリから91種類のコロナウイルスが分離されました。コロナウイルス以外にも、エボラウイルスやマールブルグウイルスなど、コウモリはさまざまなウイルスを保有しています。エボラウイルスとマールブルグウイルスは、エボラ出血熱とマールブルグ出血熱の原因ウイルスです。これらは、新型コロナウイルス感染症よりもかに致死率が高い病気です。コウモリはコロナウイルスに感染しても病気にはならないようです。



特別なあなたに 特別な1枚
「新潟大学カード」

新潟大学全学同窓会では、三菱UFJニコスと提携して、ゴールドプレステージの「新潟大学カード」を発行しています。多くの特典を享受できるとともに、新潟大学の支援にもつながります。入会のお問い合わせは全学同窓会まで。

特典 年会費無料 海外・国内旅行傷害保険付き(最高3,000万円) 国内主要空港のラウンジが無料

新潟大学カードに関するお問い合わせ先
新潟大学全学同窓会事務局 電話：025-262-7891 (受付時間 平日10:00～15:00)
E-mail : n-doso@adm.niigata-u.ac.jp

入会受付中！

VISA MUG CARD

NIIGATA UNIVERSITY



新潟大学カードに関するお問い合わせ先
新潟大学全学同窓会事務局 電話：025-262-7891 (受付時間 平日10:00～15:00)
E-mail : n-doso@adm.niigata-u.ac.jp

**病気と闘う子どもと、
その家族が一緒にいられますように。**

– 小児医療宿泊施設 – ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた

募金にご協力お願いいたします。

お問い合わせ：サポートー連携推進室 TEL : 025-262-6010 E-mail : kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

検索

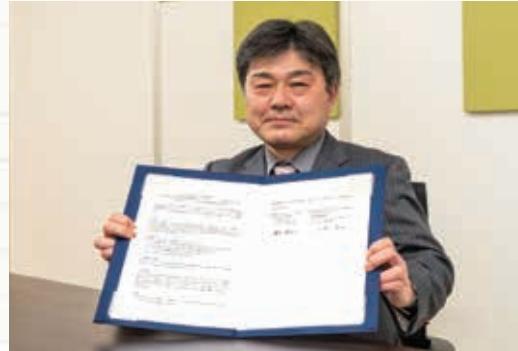
2022年
開設予定

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動を続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

人工知能・ビッグデータの研究開発力強化と高度人材育成の推進に関する連携協定を締結しました

本学研究推進機構附置ビッグデータアクティベーション研究センター(センター長 山崎達也)と、筑波大学人工知能科学センター(センター長 櫻井鉄也)は、人工知能及びビッグデータに関わる教育や研究の推進を強化するため、2021年5月10日(月)に連携協定を締結しました。本協定は、本学の分野融合研究／人材育成／産学・地域連携の取組と、筑波大学の特徴である学際性を活かした分野横断型の研究体制により構築された基盤技術と応用研究を柱に、双方の持つ資源を有効に活用し、先端的な研究開発力の強化、高度人材の育成ならびに研究成果の普及・社会活用の促進に取り組むことを目的としています。本学と筑波大学は、今後 Society5.0の実現を通じた社会課題の克服のための研究成果や高度人材創出の取組を加速させていきます。



新潟お笑い集団NAMARA及び合同会社N-Forceから留学生向けにお米をご寄贈いただきました

新潟お笑い集団 NAMARA及び合同会社 N-Forceから、2021年5月25日(火)に本学の留学生向けにお米(新之助)2kg×100袋をご寄贈いただきました。両団体が取り組む「NN新潟応援プロジェクト」として、コロナ禍で大変な思いをしながら異国で奮闘する留学生に食べてもらいたいとお贈りいただいたものです。五十嵐キャンパスで行われた贈呈式では、NAMARAの江口歩代表から本学坪井副学長にお米が手渡されました。坪井副学長から「ご寄付を頂戴し大変ありがとうございます。留学生には新之助を食べて一層勉学に励んでほしい」と謝辞が述べられました。



新潟大学旭町学術資料展示館リニューアルセレモニーを開催しました

本学旭町学術資料展示館(以下、展示館)は、改修工事終了後のリニューアルオープンを記念して、2021年6月18日(金)にリニューアルセレモニーを開催しました。展示館は、昭和4(1929)年に本学の前身校の一つである旧制新潟師範学校創立50周年を記念した新潟師範学校記念館として建てられたもので、新潟市に現存する最古級の鉄筋コンクリート造りの建造物として、国の登録有形文化財に認定されています。老朽化が進んでいたことなどから、文化庁の令和2年度文化資源活用事業費補助金の助成を受けて、建築当初の設計図や古絵葉書などを参考にして昨年11月から外観等の修復工事を実施し、このたびリニューアルオープンを迎えました。セレモニーでは、丹治嘉彦旭町学術資料展示館長の開会挨拶に続き、牛木辰男学長が改修に携わった関係者の方々への謝辞と今後の展示館への期待について挨拶を述べた後、展示館前で、来賓の新潟市文化スポーツ部歴史文化課長・遠藤和典氏、牛木学長、澤村明学術情報基盤機構長、丹治館長によるテープカット式が行われました。また、セレモニーの後、参加者および報道陣向けの内覧会が行われました。

